

科目名	地域ボランティア活動論			ナンバリング	ZSC281	授業形態	講義
対象学年	1年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1単位
代表教員	荻原久佳	担当教員	○荻原久佳、小林大介				

授業の概要	地域におけるボランティア活動は、自発性に裏付けられた主体的な活動であり、現代社会において介護保険をはじめ社会保障制度の整備が進んでいるが、制度の狭間にある問題点を少しでも埋めようとする相互扶助による活動である。本授業科目では、医療・福祉・保健現場をはじめ、在宅で障害のある方や高齢者が自立して暮らせるための活動および障害児支援活動など様々なボランティア活動について学ぶ。さらに、特定非営利活動法人(NPO法人)の活動について学び、地域貢献につながるボランティア活動について理解を深める。(オムニバス方式/全8回) (荻原久佳/4回) 日本身体障害者水泳連盟におけるクラス分けの経験例をあげながら、障害を有する方が生き生きと在宅生活を過ごすために求められるスポーツや健康増進に関わるボランティア活動について学ぶ。また、特定非営利活動法人の活動について例をあげて学ぶ。 (小林大介/4回) 仙台市呼吸健康教室の経験例をあげながら、在宅生活中に呼吸困難が生じたときの対処法や症状増悪を避けるための予防法、日常生活における労作負担の少ない動作方法や環境配慮、活動性維持向上をねらった歩数計の導入等の運動指導を具体的に学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 特定非営利活動法人(NPO法人)活動と地域ボランティア活動の概要について理解し、説明することができる。</li> <li>2 地域ボランティア活動における理学療法士の役割について理解し、説明することができる。</li> <li>3 身体障害者スポーツにおける理学療法士の役割と必要な知識について理解し、説明することができる。</li> <li>4 地域・在宅での内部障害者における支援の現状と理学療法士の役割について理解し、説明することができる。</li> </ol>						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	日頃から、障がい者、障がい者スポーツに興味を持って、意識して情報を得ること。特に、居住する地域の様々な活動に対して情報を得ること。地域や大学などで主催するイベントに参加して、障がい者スポーツや様々なボランティアに関わる機会を多く設定し、実体験を通じて、その魅力を感じ、自分たちができることについて考え行動ができるようになることを望む。						
ディプロマポリシーとの 関連	【健康医療科学部理学療法学科のディプロマポリシー】						
	○	1 広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職の担い手としてふさわしいヒューマンズムと倫理観を身につけている。					
	○	2 地域に住む人々の健康・医療課題を的確に把握し、疾病や障害を予防することや、疾病や障害から生ずる身体機能および能力の回復・改善を促すことを通じて、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	○	3 健康・医療に関わる課題を解決するために、理学療法士の専門的な過程を用いて根拠に基づいた科学的思考が展開でき、優れた理学療法技術駆使して日常生活活動に関わる基本動作や身体能力の維持・改善に対する支援ができる。					
○	4 健康・医療に関わる理学療法の専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的且つ能動的な学修ができる。						

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> <li>①特定非営利活動法人(NPO法人)、地域ボランティア活動の概要について理解している。</li> <li>②地域ボランティア活動について理学療法士の役割を理解している。</li> <li>③身体障害者スポーツの概要、歴史、種類等について理解している。</li> <li>④身体障害者スポーツにおける理学療法士の役割について理解している。</li> <li>⑤地域・在宅における内部障害者の現状と支援、理学療法士の役割について理解している。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①特定非営利活動法人(NPO法人)、地域ボランティア活動の概要について理解し、この地域に関係するボランティア活動の調査・説明ができる。</li> <li>②様々な種類の地域ボランティア活動について、理学療法士の関わり方や必要性について理解し、説明できる。</li> <li>③身体障害者スポーツに関わる理学療法士の役割、指導に必要な知識や具体的な指導・実践について理解し、説明できる。</li> <li>④地域・在宅の各種内部障害者に対する評価、リスク管理、運動指導方法等の理学療法士の具体的な役割と実践について理解し、説明できる。</li> </ol>

成績評価観点	評価方法						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)	○	○					50%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート		○	○	○	○		50%
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	manabaを使用して、フィードバックを行う。
---------------	-------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考	
授業計画	第1回	地域ボランティア活動とは	特定非営利活動法人(NPO法人)活動とは、ボランティア活動との関連、地域におけるボランティアとは、についての解説を加え、グループワークとして、この地域におけるNPO活動、地域ネットワーク、行政との連携、ボランティア活動の実際について調査する。		
	第2回	地域ボランティアと理学療法士との関わり	スポーツボランティアや、理学療法士会で行われているスポーツに対するメディカルサポートについて、具体的に例を挙げ、理学療法士としての関わりについて学ぶ。		
	第3回	身体障がい者スポーツとその支援1	身体障がい者スポーツと、パラリンピックについてその歴史や、行われているスポーツの種類について解説する。更に、障がい者スポーツ指導に関する知識、理学療法士としての関わり方について考える。		
	第4回	身体障がい者スポーツとその支援2	身体障がい者スポーツと、理学療法士としての関わり方について、身体障がい者水泳や、車いすバスケットなどのクラス分けを例に挙げ、障がい者(児)の生活の質とスポーツとの関わり、そこに携わるボランティア活動について考える。また、実際に障がい者(児)との交流を行い理解を深める。		
	第5回	内部障害のリハビリテーション	内部障害の定義と種類、疫学等のついて説明し、内部障害のリハビリテーションの現状について解説する。		
	第6回	地域・在宅における内部障害者の現状	内部障害者の援助や法律的な側面について、身体障害者福祉法、介護保険、医療保険をもとに説明し、仙台市を例に挙げ、地域や在宅での社会援助や課題等の現状について解説する。		
	第7回	地域・在宅における内部障害者支援の実際	仙台市で行政と連携して実施している呼吸健康教室を例に挙げ、教室プログラムの構成と実践例、理学療法士の役割等について解説する。		
	第8回	内部障害者に対する地域・在宅での理学療法	呼吸機能障害者に対する地域・在宅での理学療法を例に挙げ、呼吸困難を緩和させる体操や日常生活指導、運動を継続させるための工夫等について解説する。		
	試験	障がい者スポーツボランティア、健康指導教室等への参加を通じたレポートによる評価(50%)、筆記試験による評価(50%)			
	授業の進め方	講義の前半にプレゼンテーションを行い、その内容を通してグループによるディスカッション、演習を行います。また、授業の内外に実際にボランティア活動を体験することにより、興味と理解を深めて頂きます。			
授業外学習の指示	障がい者スポーツや、その他地域ボランティア活動に対する興味と理解を深めること。自身の周りのボランティア活動や、メディアを通じた情報に目を向け、自ら情報を収集し、また、身近なボランティア活動に参加することで、より興味と理解を深めること。 (授業外学習時間： 毎週 220 分)				

教科書	必要に応じてプリントを配付する
参考書	平田竹男(編著)河合 純一・荒井 秀樹(編):パラリンピックを学ぶ、早稲田大学出版部、1,500円+税、ISBN:978-4-657-16014-0 (公財)日本障がい者スポーツ協会(編):障害者スポーツ指導教本 初級・中級(改訂版)、ぎょうせい出版、2,592円(税込)、 ISBN:978-4-324-10107-0
参考URLなど	なし
その他	なし